

分科会テーマ	【第7分科会】多様な主体の協働	
テーマ趣旨、 進め方	地域組織やグループ・NPO、企業、学校、行政等、多様な主体が協働することによる相乗効果等が見込まれ、一層の相互理解や協働ノウハウの蓄積が期待されている。そこで、本分科会では多様な主体の協働に関する現状と課題、展開の可能性や必要な取り組みについて意見交換した。	
出席者	奥西 崇文 (特)コミュニティ事業支援ネット 坂本 津留代 (特)ニューいぶき 黒石 有香 (特)ニューいぶき 森 信行 (特)パークコーディネート創生 菅野 裕之 (公財)兵庫県生きがい創造協会 西本 和美 (公財)ひょうご産業活性化センター 小畠 崇史 丹波市まちづくり部市民活動課 鈴木 達也 宝塚市市民協働推進課	中尾 篤也 西宮市教育委員会放課後事業課 松井 奈都紀 加古川市協働推進課 ゲストスピーカー 谷口 博章 西宮市市民協働推進課 河崎 紀子 阪神友愛食品株式会社 奥村 政浩 西宮市立西宮東高等学校 杉本 善希 尼崎市社会福祉協議会老人福祉センター
ファシリテーター	東 朋子 (特)コミュニティ事業支援ネット	
事例・話題提供	<p><b>【事例1】</b> 谷口 博章(西宮市市民協働推進課)「行政の立場で」          ・西宮市は「西宮市参画と協働の推進に関する条例」がある。          ⇒市民から市への協働事業提案、パブリックコメント、政策提案等          …協働事業提案は、資金(事業費)と市との繋がりが(市の協力)が得られる。          (課題)近年応募が減っている→提案しても実現しないことが多い。(原因は行政側の理解がない。現在の仕事以上のことはやりたがらない等)、概算払い可能にし地域の課題解決に資するコースを作成したが低調。  <b>【問題提起】</b>行政職員の協働への意識はどうすれば変わるのか？</p> <p><b>【事例2】</b> 河崎 紀子(阪神友愛食品株式会社)「企業の立場で」          ・コープこうべ 地域(コミュニティ)での集い場づくり          ・阪神友愛食品 障害者を雇用          ・能力開発センター 知的障害者の雇用促進に向け職業訓練          ・ゆうあいサポート 就労継続支援A型(雇用型)事業所でペットボトルのリサイクル事業          (課題)障害者が高齢化する中、事業継続が難しい。法定雇用率を守っていない会社が多い。働く障害者の休日の過ごし方等、地域と繋がった方がよい場面は多いが繋がっていない。障害者の社会参画の場(地域とのつながり)を広げたい。  <b>【問題提起】</b>障害者が社会とつながるためにどうすればよいか？</p> <p><b>【事例3】</b> 奥村 政浩(西宮市立西宮東高等学校)「学校の立場で」          ・将来のまち、協働の担い手となる子どもたちを育成し、社会に開かれた教育を提供。          ⇒「西宮学」…将来の社会のリーダーとなる人材を育成している。          …西宮市、裁判所、国家公務員、地元小学校、地元NPOや各種団体等との協働          (課題)担い手となる子どもたちをどう育てていくか。管理職の考え方によって大きく異なる。高校生自体は「協働」とは理解していなくても、時間を作ることで原風景の中に宿る。奥村校長だからできたことがたくさんある。  <b>【問題提起】</b>関わる人の考え方によって協働の成果は変わってしまうのか？</p> <p><b>【事例4】</b> 杉本 善希(尼崎市社会福祉協議会老人福祉センター)「地域組織の立場で」          ※異動前は尼崎市社会福祉協議会大庄支部事務局長。尼崎は社協＝自治会の単位。          ・大庄地域は高齢者が多く、高齢者の見守りを行っている。          ⇒様々な団体との連携により地域での孤立を防ぐ。[大庄モデルから尼崎全市へ]          ・森の文化祭(尼崎の森中央緑地、県との協働)を行っている。          ⇒地元の社会資源である尼崎の森中央緑地の活用法をみんなで話し合っって検討。          ⇒お互いを認め合い、課題を共有し、互いに力を出し合っって解決することが大切。  <b>【問題提起】</b>地域は「協働」をわかっているのか？わからなくてよいのか？</p>	

## 意見の概要

### 【現在協働していること】

- ・いろいろな主体との協働を進める取り組み(助成金、つながりづくり)(西宮市)
- ・西宮学。自治会+高校生・高校 ⇒ 緊急時の避難所運営を一緒に検討(西宮東高校)
- ・高齢者の見守り。顔の見える関係づくり(尼崎市大庄地域)
- ・行政から押し付けられたイベントではなく、一緒に考えてつくる催しの開催
- ・地域は協働しないと進まない(神戸市西区井吹台)
- ・まちづくり協議会のマニュアルを地域と共に作成(宝塚市)
- ・人口減で行政は地域に関われない ⇒ 住民自ら地域運営(小学校区単位の自治協議会)(丹波市)

### 【困っていること】

- ・障害者の災害時対応。福祉サービスだけでない地域と障害者のつながりづくり
- ・行政の部署によっては協働の意識が低い
- ・“市民が求める協働”と“行政が求める協働”のミスマッチ
- ・顔の見える関係づくり。協働したいがどうすればつながるのか？
- ・今協働できていても後継者が心配(次世代のリーダー)

## これからのこと・まとめ

- 横につながろうという意識を子どもの頃から育てる。
- 地域はつながっていないと活動ができないから「協働」と言わなくても当たり前「協働」している。自然体の「協働」も重要。
- 行政側の「意識の変革」が必要！「行政の手間を省くためにNPOにやってもらおう」はダメ
- 「課題の共有」「成果(ゴール)を共有」が大切
- 行政内の“つなぎ役”の存在や“ボトムアップの仕組み”が協働意識を変えるカギ！

**行政も企業も地域もNPOも、どんなセクターであっても、枠を超えた横のつながりを作る「コーディネーター」が重要である。**